



# 輝く 恵那人

253人目



長島町 中野  
角野 秀哉さん (66歳)

### □プロフィール

角野製作所3代目代表取締役社長。航空機部品や医療機器の製造を手がける他、小水力発電装置「ピコピカ」の発明・販売までを一貫して取り組んでいる。休日には仲間とゴルフを楽しみ、趣味のドライブで笠置山や長野県を訪れて、すてきな景色を眺める時間が気分転換になるとほほ笑む。



Instagram



▲大阪・関西万博でピコピカを紹介する角野さん



▲ピコピカの仕組み

## 世界中に明かりをともし 小水力発電で世界の命と教育を守る

昨年の大阪・関西万博の国連ブースで小水力発電装置「ピコピカ」を世界に発信した角野さん。角野製作所の代表取締役社長として、航空機部品や医療機器の製造を手がける他、その技術力を生かし、ピコピカの開発に尽力している。祖父が鍛冶屋として創業し、父が自動車部品製造へと発展させた同社に20歳で入社。その後、難削材の複雑形状加工技術を研究し、独自の加工技術を確認。航空機業界に参入後、43歳で社長に就任し、時代に応じて進化を続けてきた。50歳で小水力発電事業に参入し、既存の河川や水路に設置するだけで10トンの発電ができる装置「ピコピカ10」を開発した。直後に東日本大震災が発生し、被災地に10台を寄付。大きな発電量はないが、停電下の明かりは被災者の大きな心の支えとなった。「もっと電気を必要とする人を助きたい」という強い思いが芽生えたという。55歳で訪れたミャンマーでは、

電気がない暮らしを送る子どもたちの現実を知る。「あの子たちは、夜に本も読めない。発展途上国にこそ教育が必要」という思いから、ピコピカ10より高出力の「ピコピカ500」を開発。さらに重機不要で設置できる「ピコピカ100」にも着手し、本年春に販売を迎える。「常に真の支援は何かを考え、開発や製造を行っている」と思いを語る。ピコピカは外務省企画の海外広報映像で再生回数1位に輝くなど、新しい再生可能エネルギーのあり方として注目を集めている。昨年10月には大阪・関西万博で紹介。「世界に向けてピコピカと教育の大切さを伝えられた」と振り返る。今後もジャンルを問わず「ものづくり」に挑戦したいという角野さん。「ダムが多い恵那で育ったことが水力発電への着想につながった。市内には技術力の高い企業がたくさんある。チーム一丸で恵那を盛り上げたい」と意気込み、恵那から世界へと明かりをともす。

## News & Topics

まちのわだい

市のホットなニュースを紹介!



その他の話題はこちらから▶



2/15 次の世代へ 市伝統芸能大会を開催

「つなごう 伝えよう 恵那の伝統芸能」をテーマに、市伝統芸能大会を開催。市内九つの保存会が文楽や獅子舞、歌舞伎などを披露し、観客を魅了しました。



2/5 夢のきっかけ 中学生おしごと体験

市内17事業所などが出展し、中学生おしごと体験会を開催。中学1年生約240人が参加しお札を数えたり、良品と不良品を見分けたりして、楽しみながら仕事を学びました。



2/18 県内初! 東濃5市 消防指令センター

東濃5市消防指令センター(瑞浪市)の開所式が行われました。119番通報の受信はすでに同センターへ切り替えられており、4月から本運用が開始されます。



2/19 感謝や思いを空へ バルーンリリース

岩邑中学校の閉校記念事業として、同中の生徒と岩村子ども園の園児がバルーンリリースを実施。メッセージカードを付けた風船を空へ飛ばし、見えなくなるまで見守りました。

クマ出没に備え、市、県、猟友会、恵那警察署など関係団体が、緊急銃猟の実地訓練を実施。着ぐるみのクマ役に近づき、模擬の銃を撃ちました。



2/19 地域を守り備える 緊急銃猟訓練



2/24 盾や刺股を使った 防犯訓練

市役所職員を対象に防犯訓練を実施。「来庁者と職員の安全を確保する」という不審者対応の基本を確認しました。

市役所業務に興味を持つ大学生や大学院生を対象に有給インターシップを実施。希望する部署を中心に、実際の業務を体験しました。



2/2-27 市役所業務を体験 有給インターシップ